古文書から見えた
私部城
～語り継がれる歴史～

VOL.10

問い合わせ
社会教育課文化財係（TEL 893・8111）

『加賀藩史藁』（国立国会図書館蔵）

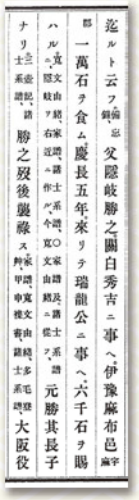
加賀の安見氏

交野の古文書以外で、安見氏のことを多く伝えているのが石川県の金沢（旧国名・加賀）です。

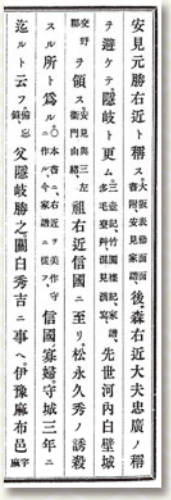
先月号でも紹介した明治時代に作られた『加賀藩史藁』や金沢に関する由緒をまとめた『金沢古蹟志』という史料に安見右近とその子孫についての記載があります。

この伝承によれば、私部城は「白壁城」と呼ばれています。城の塀が白壁であったため、このように呼ばれていたそうです。

また、右近の子、勝之が、豊臣秀吉に仕え、愛媛に住み、その後、慶長5年（1600）に加賀の前田家に仕え、6千石の領主となったとあります。右近に子どもが何人いたかは不明ですが、この勝之が、9月号で紹介した、右近の妻が吉田神社で病気を治すための祈祷をした子息なのかもしれません。



迄ルト云フ 鍋島 父隠岐勝之圖白秀吉ニ事ヘ伊豫麻布邑麻宇郡一萬石ヲ食ム慶長五年來リテ瑞龍公ニ事ヘ六千石ヲ賜ハル 寛文由緒家譜士系譜 隠岐ヲ右近ニ作ル 今譜 寛文由緒及諸士系譜ニ従フ 元勝其長子ナリ 三盛記諸士系譜 勝之歿後襲祿ス 家譜 寛文由緒 多毛壁 甲申雑寄諸士系譜 大阪役



安見元勝右近ト稱ス 大阪表陣面 安見家譜 後森右近大夫忠廣ノ稱ヲ避ケテ隠岐ト更ム 三盛記 竹園見聞記 家譜 先世河内白壁城郡 竹ヲ領ス 見聞 由緒 三左 祖右近信國ニ至リ松永久秀ノ誘殺スル所ト爲ル 本書ニ作ル 今家譜ニ従フ 信國寡趨守城三年ニ迄ルト云フ 鍋島 父隠岐勝之圖白秀吉ニ事ヘ伊豫麻布邑麻宇

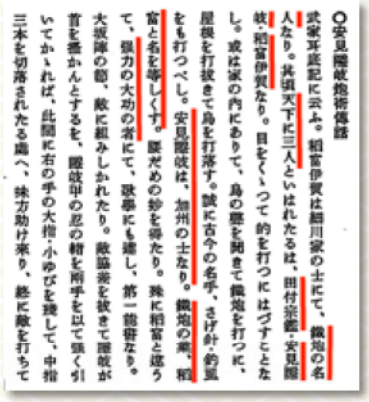
『加賀藩史藁』白壁城と勝之の記載

鉄砲名人の安見元勝

勝之の長男の元勝は、武勇に優れた人物でした。父と同じく前田家に仕え、大坂の陣での活躍により、1万4千石もの土地を与えられています。元勝は砲術家としても有名で、田付景澄、稲富一夢と並び、当時は鉄砲の三大名人として名をはせていました。

先月紹介しました『室町殿日記』で、私部城に「やぐらに鉄砲二、三〇挺が構えられ、近づくことは難しい」という記載があることから、昔から安見氏は鉄砲に長けた一族であったのかもしれません。

そんな元勝ですが、寛永10年（1633）に島流しにあっています。何の罪でそうなったかは諸説ありますが、元勝はどうも乱暴な性格であったそうです。戦乱の中では豪快に戦った元勝も、平和な世の中で上手に生きられなかったのでしょうか。



○安見隠岐鉄炮術傳誌

武家耳底記に云ふ。稲富伊賀は細川家の士にて、鐵炮の名人なり。其頃天下に三人といはれたるは、田付景澄・安見隠岐・稲富伊賀なり。目をくゝつて的を打つにはづすことなし。或は家の内にありて、鳥の壁を聞きて鐵炮を打つに、屋根を打抜きて鳥を打落す。誠に古今の名手、さげ針・的星をも打つべし。安見隠岐は、加州の士なり。鐵炮の術、稲富と名を等しくす。隠岐の妙を得たり。殊に稲富と違ひて、強力の大功の者にて、歌學にも通し、第一能書なり。大坂陣の節、敵に組みしかれたり。敵脇差を抜きて隠岐が首を掻かんとするを、隠岐甲の忍の緒を所手を以て強く引いてかゝれば、此間に右の手の大指・小ゆびを挽して、中指三本を切落されたる處へ、味方助け來り、終に敵を打ちて

『金沢古蹟志』（金沢市図書館ホームページ）

コラム　安見氏が登場する小説

勝之と元勝は、加賀で「隠岐」と名乗っていました。そんな隠岐が登場する『安見隠岐の罪状』（戸部新十郎作、毎日新聞社）や、安見右近が主人公で、一族として安見隠岐勝之も登場する『右近と秀長－傍示の城』（杉原雅明作、碧天舎）という小説があります。

どちらの小説も、加賀の安見家の伝承を多く含んでおり、細かい描写が想像力をかき立てます。

広報かたの編集と発行
No.800
交野市役所企画財政部秘書広報課　〒576－8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号
TEL 072・892・0121　FAX 072・891・5046　発行：2019年1月1日

交野市ホームページ
https://www.city.katano.osaka.jp/
かたのスイッチ
https://katanoswitch.jp/
広報アプリ「マチイロ」
http://machiiro.town/lp/osaka_katano